

公益社団法人奈良まちづくりセンター

平成 28 年度文化庁助成

奈良町の歴史・文化遺産を活かした地域活性化事業 (奈良町モノ語り調査) 報告

平成 29 年 3 月 31 日発行

ID : 111328017

「奈良町モノ語り調査」は、民族文化遺産の所在と意義を明らかにし、伝統的生活で使われた「モノ」に焦点を当てる。観光客が見る「町家」だけでなく、住民の生活文化や生業に重点を置き、歴史文化遺産に育まれた暮らしを再認識する資料を発掘し、「まちづくり」に寄与することを目的とする。

ここでは、奈良町に生まれ、映画館経営、奈良の観光振興に功績のあった谷井友三郎氏を紹介している部分の写真を掲載します。

谷井友三郎の足跡

谷井友三郎 (1901~1979) は奈良町に生まれた。

全国各地で開かれた博覧会で「奈良館」をつくるなど、展示企画に才能を発揮する。昭和 14 年 (1939)

観光大和歴史館を三条通りに開館したが失敗 (写真①)。3 年後、映画館や劇場の経営に転じて成功する。終戦後、GHQ が中止した年末行事「春日若宮おん祭」の時代行列を昭和 21 年 (1946) に復活させた。

9 月の「采女祭り」、6 月の「ゆりまつり (三枝祭り)」を華やかな観光行事にした。

一方、谷井興業として、多数の映画館などを経営された。奈良ニュース映画館 (奈良東映)、奈良映劇 (写真③)、友楽座 (写真②)、ホテル友楽、友楽会館、友楽観光ビルなど娯楽・演劇の時代を築きました。

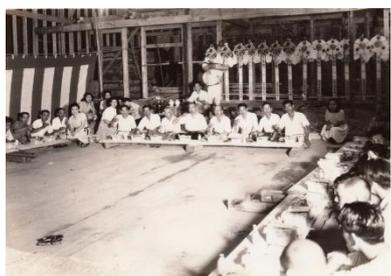
昭和 35 年 (1960) 「奈良遷都千二百五十年祭」を奉祝会長として成功させた。(写真④)



① 観光大和歴史館上棟式
(昭和 14 年)



② 友楽座の上棟式
(昭和 21 年)



③ 奈良映画劇場上棟式
(昭和 24 年)



④ 奈良遷都千二百五十年祭
(昭和 35 年)

